

平成28年度学校評価及び学校関係者評価について

【学校評価】（別紙「平成28年度学校自己評価」参照）

◇重点目標に対する自己評価

- | | |
|--|----------|
| 1 基本的な生活習慣の確立 | <u>B</u> |
| ・時間厳守、挨拶励行、整理整頓を実践させる。
・正しい携帯電話の使い方を指導する。 | |
| 2 基礎学力の確実な定着と専門的な知識・技術の習得 | <u>B</u> |
| ・個性や能力に応じた授業を実践し、一人一人の学力を高める
・資格取得、コンテスト、競技大会への挑戦など、生徒の実践力を高める機会を充実する | |
| 3 ものづくり技術を生かした地域・国際貢献の推進 | <u>A</u> |
| ・工業の特色を生かした地域連携・交流の推進に努める。
・福祉教育をとおした地域・国際貢献活動の推進に努める。 | |
| 4 部活動の充実 | <u>B</u> |
| ・生徒の自主的、自発的な活動の場を充実し、部活動の活性化に努める。
・体力の向上と豊かな情操、さらによりよい人間関係を育成する。 | |

◇評価結果に基づく今後の改善方策等

- ・「基本的な生活習慣の確立」については、アンケート結果から、生徒の基本的な生活習慣に対する意識が向上してきていると思われる。今後も、指導をさらに充実させより一層の意識の向上を図りたい。
また、携帯電話やスマートフォンの正しい使い方については、浸透しつつあるが、交流サイト、SNS、ゲームなどに長時間夢中になってしまうという傾向にある。日頃から注意を喚起し、適切に携帯電話やスマートフォンを使用するように指導していきたい。
- ・「基礎学力の確実な定着と専門的な知識・技術の習得」については、生徒の学びたいという思いと先生方の魅力あふれる授業・わかる授業の実践等が互いにより効果を生み、基礎学力の定着や専門的知識・技術の習得が図れたようである。特に、生徒の資格取得や各種コンテスト、競技大会への取組は意欲的に行われていた。今後さらに資格取得を推進し、教職員への意識付け及び多くの生徒が資格試験にチャレンジするよう働きかける。そして、一人でも多く合格するように講習会や補習を充実させていきたい。
- ・「ものづくり技術を生かした地域・国際貢献の推進」については、地域の小・中学校での修理活動や交流活動、「光と音のページェント」事業など地域イベント等の意義をよく理解し、それらの活動において栃工生としての自覚を持って活動に取り組んでいる。また、保護者も交流活動の意義を理解し協力的である。今後は、より一層の生徒の活動の場となるよう、交流活動を継続していきたい。
また、タイ王国ボランティア交流研修や空飛ぶ車椅子活動も継続実施をし、さらに充実をさせたい。
- ・「部活動の充実」については、約90%の生徒が部活動に所属し、8割超の生徒が積極的に部活動に取り組んでいる。大会入賞も増えており、日々の活動を充実させている。文化部も科学技術系の部を中心に、日々の活動を充実させている。今後も、部活動全体の充実を図りたい。

【学校関係者評価】

◇評価結果

本校における学校運営全般に対する意見をいただき、本校の良い点や改善すべき点など客観的に自校を知ることができた。学校評議員からは主に下記のような要望等があった。

- ・学習の取り組みに対しては、「なぜ基礎学力が必要なのか。」「なぜ学ぶのか。」など、学習目標を設定し、明確化することが大切である。生徒、教員、保護者、共に目標を共有し学習に取り組むとよい。
- ・「生徒活動報告会」を見学し、生徒のがんばりと先生方の熱心な指導の様子が強く感じられた。とてもすばらしい発表が多かった。
- ・小・中学校での出前授業やテクニカルリペア活動、光と音のページェント事業への展示協力など、栃木工業高校が実施している地域との交流活動について、交流した地域の方々からとてもよい評価を得ている。ぜひ、活動を継続して欲しい。
- ・「タイ王国ボランティア交流活動」が復活してよかった。グローバル人材育成などからの補助を受けるなど、いろいろな団体などから支援をしていただけるのも、生徒が学校生活に満足し校外活動でも活躍しているからである。これからも、その支援に答えられるように活動して欲しい。

- 1 基本的な生活習慣の確立 B
 - ・時間厳守、挨拶励行、整理整頓を実践させる。
 - ・正しい携帯電話の使い方を指導する。
- 2 基礎学力の確実な定着と専門的な知識・技術の習得 A
 - ・個性や能力に応じた授業を実践し、一人一人の学力を高める
 - ・資格取得、コンテスト、競技大会への挑戦など、生徒の実践力を高める機会を充実する
- 3 ものづくり技術を生かした地域・国際貢献の推進 A
 - ・工業の特色を生かした地域連携・交流の推進に努める。
 - ・福祉教育をとおした地域・国際貢献活動の推進に努める。
- 4 部活動の充実 B
 - ・生徒の自主的、自発的な活動の場を充実し、部活動の活性化に努める。
 - ・体力の向上と豊かな情操、さらによりよい人間関係を育成する。

◇評価結果の公表に基づく今後の改善方策等

【学校運営に生かされた事例】

- ・「生徒活動報告会」の際にいただいた意見に対しては、ホームページに関連の情報を今後もタイムリーに掲載していきたい。また、その発表会の中で最優秀賞をいただいた「こどもパソコンSkyBerryJAM」については、ホームページの中に特設のコーナーを設け、詳細に活動を報告している。また、タイ王国ボランティア交流研修についても、事前研修から交流研修まですべてをホームページに掲載したり、報告書を昨年よりも早く作成・配布している。今後も、学校内外への情報発信も積極的に行い学校をPRしていきたい。

【今後の取り組む改善方策】

- ・「基本的な生活習慣の確立」、「基礎学力の確実な定着と専門的な知識・技術の習得」、「部活動の充実」については概ね満足できると評価されているが、時間厳守や整理整頓、基礎学力の定着についてさらに具体的方策を示しながら改善を図っていきたい。
- ・今年度、資格取得を推進したことにより、成績が大変よくなった。今後も、教職員への意識付けとより多くの生徒が各種資格試験にチャレンジするよう働きかけていきたい。特に、一人でも多く合格できるように講習会や補習等を充実させていきたい。
- ・タイ王国ボランティア交流研修や空飛ぶ車椅子活動を今後も継続していきたい。
- ・起業家推進育成事業で開発した「こどもパソコンSkyBerryJAM」をより使いやすいパソコンにする研究や地域の小・中学校での修理活動、「光と音のページェント」など本校の特色ある活動を今後も継続させ、生徒が主体的に取り組める環境を整えるとともに「輝く場面」を多く提供していきたい。